



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:0593-31-1670
 ☎:0593-32-0733

掲示板法話

怒りは人と人とを分裂させ 悲しみは人と人とをつなぐ



(藤枝宏寿著「仏法のしずく」より)

この頃、テレビのニュースや報道番組を見て腹の立つことがふえました。年金問題、日銀総裁人事、道路財源のどたばた劇、後期高齢者医療制度など、皆が怒るのも無理からぬものがあります。恥ずかしながら、私も同様です。ところがあるとき、「お父さんの頃怒りつづけたなあ。どこか具合が悪いのかなあ」と息子たちが心配していたよ、と坊主から教えられ、驚きました。「わが子に心配かけていたことを申し訳なく、恥ずかしくなりました。」

「怒り」の感情は、「自分は正しいが、他人(この場合は役人や政治家)は悪い」という気持が根底にあります。実際、最近のテレビ番組では「善か悪か」、「敵か味方か」と単純化するシナリオで番組が作られ、冷静で長期的視野に基づいた思考をさせません。その結果、社会は分断され、老若を問わず、「そんなの関係ない」という視野の狭い、わがまま人間が増える傾向が強まっています。しかし、限られた一度きりの人生がイライラと愚痴のとりこで終始するすれば何と空しいことでしょうか。

子供たちの将来を案じ、成長と自立を願っているつもりなのに、逆に彼らが父親のことを心配していてくれるとは何と有難いことだろう、…。不思議にも怒りの感情は鎮まります。それと反比例して、「同じ仲間同士、ののしりあい、互いに傷つけあっているとは悲しいなあ」と思うようになりました。「悲しむ心」は、同じ悲しみを背負う仲間と共感する心です。「いのちをいとおしむ心」とか「同感する心」と言い換えてもよいでしょう。

新緑の野山を歩くと、卯の花やウツギ、山つつじが美しく、「てっぺんはげたか」と聞こえるホトトギスの鳴き声、「ちよつと」「ちよつと」という「コジュケイ」の鳴き声が聞こえます。彼らも短い季節を懸命に愛し合いながら生きていくのだなあと思うと、いとおしくなります。

ほろほろと鳴く山鳥の声聞かば
 父かと思ふ 母かと思ふ
 という行基菩薩の歌が頭に浮かび、お浄土から懐かしい父母が見えてくれる、願ってくれていると感じられ、一層

☆行事ご案内☆

6月15日(日)夜7時半:例会

- ①「仏事やお勤めは仏徳を讃えること」であり、「慰霊」ではない、という意味、味わいを語り合う。
- ②「正信念仏偈」の解説とお勤めのコツを伝授。音のとり方、和讃の節回しなど、上達のコツ…。

※20年度門信徒会会長に館義徳氏を選出。1年間よろしく!

♪三重組コーラス♪

- ※5月最終土曜日夜の小杉練習は無し(念仏奉仕団のため)
- ※陽光苑慰問6/6(金)10時半誰でもOK。童謡懐メロ
- ※6月9日(月)午後1時:合同練習(西勝寺)合同特別練習
- ※6月28日(土)夜、小杉善正寺で音楽祭の為の最終練習
- ※7月2日(水)名古屋別院音楽祭参加:バス8時半小杉、8時50分桜、黄楽譜紙、数珠、『娘達よ』『聖夜』『風に向かって』衣装は白ブラウス、黒ロング、男性は黒式服黒蝶ネクタイ56名参加
- ※6月末より2008御堂演奏会の楽譜CDの申し込み受付を開始します。お早めにお申し込み下さい(楽譜代2100円、11/22京都西本願寺バスで6回目の参加)

- ◇キッズサンガ:6月7日(土)4時お経、紙芝居、ゲーム等
- ◇一縁会テレホン法話11冊目の本『逃げたらあかん』発売中
059-354-1454へお電話を。3分間の法話が流れます
- ◇三重組仏教講習会6月14日(覚照寺)・15日(常德寺)16日(明林寺)講師:瓜生津隆真先生



いとおしい感情に包まれます。「世の中安穏なれ」という親鸞聖人七百五十回大遠忌のスローガンを「存知でしょう。これは「仏法ひろまれ」という言葉が続く親鸞様から関東の門弟・性信坊に宛てた「消息」(手紙)の一節であり、関東での訴訟事件に中心的に対応した性信坊への慈愛に満ちた返信文です。不信、不満渦巻く現代社会の「安穩」のために、怒りを鎮めて「共に悲しむ心」を中心に据えて手をつなぎあい、心通わせつつ歩んでいきたいと思うのです。

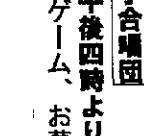
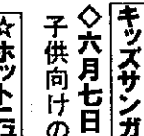
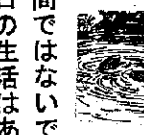


18. 4. 23 鐘つきに来た元気な子供達 in 善正寺

放課後お寺は卓球する子や境内でドッジをする子で賑やか。5時の鐘を撞き終わると全員が合掌お念仏。そしてご褒美のガム、時には境内を掃除する優しい子も。私はその子供達の見守りに大忙し

坊守スケッチ

あがき・もがきの人生から出会える喜びへ



人は苦しい状態にいる時「あがき」「もがき」という言葉をよく使います。私も受験勉強で思うような点数が取れなかった時、あがきもがきました。本来の語源を調べると意外なものでした。先月号の寺報手紙で、「ただ見れば何の苦もなき 水鳥の 足にひまなき 我が思ひかな」という水戸光圀公の短歌を紹介しました。すると多くの方から共感のお言葉を頂きました。

「人間も水鳥と同じね。他人様から見れば、どこの家族でも一見幸せそうに見えるけれども、中に入れば打ち明けることができない悩みや苦しみを抱えているもの」「泣き言や愚痴を言っても始まらないから、平然とした顔で毎日過ごしているだけなのよ」等々。水鳥も優雅に泳いでいるように見えますが、水面下ではひっきりなしに水を掻いているのです。二本の足で一生懸命掻くことから「あがき(足掻く)」という言葉が生まれ、時には足に藻が絡まってそれを振り切ろうとして「もがき(藻掻く)」という言葉も生まれました。そうです。気楽そうに見える水鳥も私達の知らないところで、必死にあがき・もがきしているのかもしれない。

人生も振り返ってみると、あがきもがいた経験があったからこそ、何か新しいものに出会えたということはある

りませんか？例えば病気や失敗の経験があったからこそ他人の思いやりや優しさなどに気付いたこと等です。私の場合、母の介護をしたおかげで親の愛情の深さを知りました。

ところで現在あがき・もがきしている人や、人生の座標軸が定まらない人が光を見出すような詩があります。詩人の工藤直子さんが作られました。

『あいたくて』

あいたくて 誰かにあいたくて
何かにあいたくて 生まれてきた
そんな気がするのだけれども
それが誰なのか 何なのか
あえるのは いつなのか
お使いの途中で
迷ってしまった子供みたい
途方にくれている
それでも手の中に 見えないことづけを
握りしめているような気がする
それを手渡さなくちゃ
だから あいたくて

なかなか含蓄のある、奥の深い詩です。「見えないことづけ」とは何なのか？一体「それを誰に手渡すのか？」あなたならどう考えられますか？

大切な人を亡くされた時や法事で、人はお仏壇の前に座られます。合掌してお念仏を唱える時こそ、見えないことづけを、先立たれた大切な人に手渡

す瞬間ではないでしょうか？

毎日の生活はあがき・もがきの連続です。しかしお仏壇の前で自分の心を照らす鏡を持つ人は、あがき・もがきの人生に終わるのではなく、出会える喜びの人生へと転化できるのです。

☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆「前」氏逝く ひびると化して

林中に 鳥語聴きつつ 詠まるる歌は

☆与謝蕪村 俳諧・絵画の特別展

思わず居るはMITHOミュージアム

☆薄萌葱「御衣黄」さくら 膨らかに

植樹祭跡 泉民の森

四日市市 釈弘蓮

☆大人への 階段ひとつ 上がる時

幼い吾に 寂しさひとつ

今までの私は自分の楽しさだけを求め、全てが当たり前、求めるばかり。これからは、愛する側に立ち、幼い自分を転換したい。

三重組コーラス

5月末の土曜夜小杉練習はありません

※六月六日(金) 午前十時半開光苑

※六月九日(月) 午後一時半・西勝寺

合同練習(別院音楽祭に向けて)

※六月二十八日(土) 夜小杉練習あり

※七月二日(水) 名古屋別院東海音楽

祭バス8時半小杉公開所・8時50分桜

「娘達よ」聖夜「風に向かって」曲披露

コーラス用服、黄色楽譜紙、数珠

五十六名の参加申し込み感謝します。

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇六月七日(土) 午後四時より

子供向けのお経、ゲーム、お菓子等

☆ホットニュース

☆「橋太郎と橋次郎伝説」の電子紙芝居作成！奈良教区少年連盟が作成(少年連盟便り103号掲載)したものを参考に、パソコンのパワーポイントで作成。プロジェクターやスクリーンが無くても、それをビデオ撮影したのでテレビさえあればどこでも上映可能。きび団子の代わりに四日市名物永餅のご褒美にしました。乞うご期待！

お悔やみ申し上げます

★徳知枝様(名古屋市中区八十二歳)五月八日(亡)

合掌

☆編集子より

「善正寺だより」第百七十四号をお届けします。◇三月から五月、例年の一年分を越える程のお葬式がありました。更に一週間ごとの中陰法要(初七日、満中陰・七七日)にも各家それぞれこぞって熱心にお勤めされ、仏法相続の麗しい姿に触れました。◇孫の養育に一生懸命であったおばあさんは、孫の手がかからなくなった頃から認知症が進み、徘徊するおばあさんの介護に孫が力を発揮したと聞きました。◇辛い看護の日々を「いのちのつながりを感じるよい機会になった」と懐かしそうでした。◇ミャンマーのサイクロン(台風)と中国・四川省大地震。人道支援が手をつなぐ契機になることを願う次第。合掌

美空ひばりが亡くなって早三十年、今でも名曲が数多く歌い継が
れています。私の好きな歌は「愛染祭」と川の流れのように「先日
京都嵐山のひばり記念館を訪問しました。ヒデオコナエ故郷賀
収男氏がひばりについて語っていました。ひばりの偉いところはどんなに
有名になっても最初ヒデオコナエが崩れた姿勢を崩さず歌うこと。
歌手はなまじ売っ子になると自分勝手に崩して歌う。自分が上手い
からヒットしたんだという思い上がり、バッグの演奏者がそれに合わせる
のにどんなに苦勞しているか考えようともしない。ひばりの謙虚で
初心を忘れない心を高く評価する。それが多くの人に愛され長く
歌われる由縁だ。昨年の森進一の「おふくろさん」騒動とは対照
的な人物評です。京セラの創業者の稻盛和夫氏が「人生はかけ
算である。熱意と能力と考え方の三つのかけ算。その中でどれ
かひとつがマイナスに働けば全体がマイナスの結果となる。どんなに
熱意があり能力が優れた人でも考え方が利己主義で間違
っていればマイナスだ。自分の能力と熱意を世の為人の爲に活かせ
る人こそ尊敬に値する」と興味ある話をして下さりました。平凡な
私達は大きな仕事はできませんがせめて生き方の作法としておごらず
高ぶらず、周囲のおのりを感謝しそれに応えうる人間になり
たいものです。6月の予定として三重組コーラスは6/6金陽光
苑、6/9（月）午後西勝寺と合同練習、6/28（土）夜小杉で練習、また
善正寺の例会は6/15（日）夜、三重组仏教講習会は6/14、
15、16です。ワタ（迅）名古屋別院音楽祭には56名のお申し込み
を頂き、寺の垣根を越えて仏教讃歌で手をつなぐ大きな輪とな
りつつあります。皆様の協力に厚く仰れ申し上げます。

平成三十年六月

合掌

善正寺坊守輝